

# オークランド(ニュージーランド) 個展旅日記②

## 西 悟

未知の地での初個展開催に、不安にのみこまれそうな思いが、全くと杞憂であったと判明したのがノースアートギャラリーでウエンディと初めて会い、話した時であった。

梱包作業、税関書類、発送作業を経て、作品群は七月中旬にノースアートギャラリーに到着したのだった。そして私が七月下旬にオークランドに降り立ち、いよいよノースアートギャラリーで作品を飾る準備かなと思いつつ、ウエンディに初めて会ったのだった。彼女に作品の展示方法を説明しようとする、彼女から思わぬ答えが返ってきたのである。「セイゴ、あなたはオープニングのレセプションの時だけギャラリーにいれば良いから、作品の飾り付けは全て私たちに任せて！」と言うのだ。私はてっきり自分が難しい展示に携わらないといけないと思込んでいたのだ。日本だとアーティストが展示に関わり、展覧会期間中もずっとギャラリーにへばりついて、お客さんと対応するのが当たり前と思われがちだが、欧米では完全分業で、ギャラリーの飾り付け、お客さんの対応はギャラリースタッフがするもので、アーティストは制作すること、そしてお客さんとの関わりはレセプションのみというのが普通であったのだ。—そういうえばアメリカ滞在中も展覧会は分業だったなあ！—と思

出したつ、私自身がすっかり日本式に馴染んでいたことに思わず苦笑してしまった。ウエンディは「せっかくニュージーランドに来たのだから、いろいろ見て回りなさい」と言ってくれ、私はその言葉に100%甘えることにした。—私の作品は彼女たちに任せよう。信頼してスタッフに任せれば良い—と思ったのだった。

展覧会のオープニングまで一週間ほどあったので、オークランドのギャラリー、美術館、文化施設など、くまなく見て回ろうと決めた。



オークランドアートギャラリー

ると、必ず美術館、博物館、音楽ホールを訪問する。特に美術館は絶対に訪問する場所である。私がアーティストだからということもあるが、一般的に美術館に行くと、その町の文化に対する取り組み、文化の成熟度が見えてくる。また町の行政が文化に対してどのように考えているのかも見えてくる。つまり美術館、博物館を通して、その町の成熟度が感じられるのだ。ニュージーランドはまだ建国200年もたたない、更に世界の文化中枢圏とはかなり離れている国である。文化的にいうとかなりのハズレを背負っている国であると言っても良いかもしれない。私の住んでいる高知もそういう意味で

は同様のハンディがあるのかもしれない。ところが私が美術館、博物館を訪問し感じたことは、文化をこよなく愛おしいものと捉えている雰囲気があり、かなり成熟した文化圏を構築していることに気が付くのだ。それは美術館、博物館が文化を提供、提示する側だけでなく、そこに来場してくるお客さんにも愛おしさという雰囲気を感じることができたのだ。一例を挙げると、美術館のギャラリー空間にいるスタッフ(係員)は、基本的に作品を監視する役目があり、誰かが作品を触るかもしれないと目を光らせている。この光景は日本どこに行っても同じだと思ふ。ところがオークランドアートギャラリー(オークランド最大の美術館)のギャラリースタッフは、お客さんを見ながらいつも笑顔を見せている。そしてどのようなお客さんに対しても気軽に「何か質問などあれば私に声をかけて下さい」と言っているのだ。そこには鑑賞を楽しんでもらいたい、できるだけお客さんのサポートをしたいという気持ちが溢れている雰囲気を作っているのだ。ま

た鑑賞しているお客さんを見てみると、老若男女問わず、鑑賞することに非常に慣れていて、空間をとでも楽しんでる雰囲気を感じていたのだ。日本ではお客さんの行動を監視し、問題を起こさないように管理することが大きな役目であるのが、ここではお客さんをサポートするのが主な役目と感じられたのだ。鑑賞者は体いっぱい作品を感じ取るためにこの場所に来ていることを知っているのだらう。スタッフの行動は些細なようで、でもほんの少しの対応の仕方ですべて大きく変わってくることは見逃すことはできないなと思ったのだ。同じようにオークランド戦争記念博物館、国立海洋博物館、ワレスハウスなどでも同じような空気を感じることもできた。

の先住民) に対しての理解、そして尊敬というものが非常に強く感じ取ることができたのも私的に嬉しかった。日本で言うアイヌにあたると思うが、マオリは600年ほど前にニュージーランドにカヌーで移り住み、そこから住んでいる先住民と言われている。白人



戦争記念博物館

との激しい戦いもあったらしいが、他の国と比べると、先住民に対する理解という面で、非常に先進的であるように感じられた。オークランドの人たちに聞くと、マオリと白人の関係は全てが上手くいっているわけではないが、お互いが努力して共存する環境を構築することが重要と位置づけているらしい。その努力するという姿勢が、今のニュージーランドの国を形作っているのかもしれないと思った。個人的にはマオリの作っている彫刻とか文様はすごい一言と感じている。どこかマヤ、インカ文明に共通するところがあり、非常に引きつけられるエネルギーを感じたのだ。

③へ続く

にし さとる  
画家・土佐塾中高校美術専任講師